

資料No. 1 宝塚市総合教育会議 会議録（令和2年度 第4回）

## 令和2年度 第4回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 令和2年10月9日（金）14：00～16：00
- 2 場所 宝塚市役所3階 3-3会議室
- 3 出席者 （構成員）中川市長 森教育長 川名教育委員 篠部教育委員  
木野教育委員 望月教育委員  
（検証委員）春日井委員 桶谷委員  
（関係職員）井上副市長 教育委員会事務局理事 管理部長  
管理室長 教育企画課長 職員課長 教育企画課係長  
学校教育部長 学校教育室長 幼児教育担当次長  
特別支援・人権教育担当次長 教育支援室長  
学校教育課長 学校教育課副課長 社会教育部長  
（事務局）企画経営部長 政策室長 政策推進課長 政策推進課係長
- 4 内容（議事概要）

### ■開会

中川市長の挨拶後、議題1 「再発防止策」（案）についての公開について会に諮り、非公開決定する。

（傍聴人退出）

### ■議事

議題1 「再発防止策」（案）について

（「再発防止策」（案）について、教育委員会事務局から説明）

【再発防止策（案）のタイトル及び「第1 はじめに」について】

- ・タイトルについて、検証委員との協議の中でご意見をいただいた、「「未来へ成長する教育」としてマイナスからゼロへ、そしてプラスにしていく。」、「宝塚の子ども一人ひとりを徹底的に大切にする。」、そのような決意のもとに再発防止策を作成している。
- ・「第1 はじめに」について、私たち全員の決意が全ての方々に届くような文言になるように作成している。

【基本方針に5つ目の柱を加えることについて】

- ・基本方針の5つ目の柱として、新たに「子どもに対する体罰及びハラスメントを根絶します」を盛り込んだ。体罰やハラスメントがいじめのリスク因子になる。つまり、周りの生徒が見て、同じことをしてもいいのかと思わせることをしてはいけなと明記することが必要であるという意見があり、新たな柱として挙げている。
- ・新たな柱として「子どもに対する体罰及びハラスメントを根絶します」を盛り込むことに若干の違和感がある。体罰の根絶はあまりにも大きい問題で、それを1つの柱とすることで、子どもがいじめで苦しむことがないように、それに向けて私たちは取組を進めます、という主旨がぼやけることを危惧している。強い抵抗を感じている訳ではないが、何となく若干の唐突感とか違和感がある。
- ・いじめ問題再調査委員会の調査報告書が出てもなお、中学校の柔道部で重大な事態が起きている。まさに体罰だと思うが、それ以外にも管理統制的、抑圧的な教師の物言いなど、それをハラスメントとしてとらえて、こちらがきちんと真摯に受け止めて、子どもとの関わり方をより丁寧に対話的に見直していく視点が必要で、総合教育会議がきちんとした姿勢を示していくことが、まさに今日的な意義

があるのではないか。

- ・日々の教育委員会の取り組みの中で、先生の意識をどう変えていくのかということが一番大きいと思う。先生自身が自分の言ったことが子どもにどんな影響を与えるのか、もう1度しっかり自覚してもらうためにも、こういうメッセージをしっかり発信した方がいいのではと感じている。
- ・教職員に対するメッセージであり、市民に対するメッセージであると考え、「体罰は絶対にダメ、研修しましょう」だけでなく、発生した時に厳しく対応しますという姿勢は、メッセージとしてあった方がいいのではないか。
- ・今、説明いただいたような趣旨での5つ目の柱の提案であれば理解できる。
- ・子どもの命を守るという柱を立てて、そしてもう一つ、部活動の在り方の中で体罰のことなど教師の指導の問題を別途議論する必要がある。それは総合教育会議の宿題として、今後議論すべきところだと思う。

以上の意見を踏まえ、基本方針の5つ目の柱として、新たに「子どもに対する体罰及びハラスメントを根絶します」を追加することで調整された。

#### 【新規・継続・拡充の項目について】

- ・新規はこの提言によって、新たに作っていくということで、大きな施策だと思っている。
- ・保護者との連携には2つの問題点があり、いじめの認知ができていないという点とトラブルだと認知しているのに保護者に連絡していない点がある。学校で問題行動が起きた時に、いじめであろうとトラブルであろうと、保護者と綿密に連携をとっていく。そこはボタンの掛け違いを防ぐ意味でも大事ではないかという趣旨であるので、継続でやってきたが不十分であったことを真摯に受け止め、重点課題にするという意思表示として、拡充として位置づけた方がいいのではないか。

- ・部活動の指導については、画一的な指導ではなく、個にあった指導、丁寧な対応をしようという点は重点課題であり、拡充という形にしてはどうか。
- ・多職種連携については、SCとの連携よりもSSWと連携してケース会議を実施しているが、さらに拡充して、市内の小中学校ではケース会議を定着させようということで、これも拡充の方がいいのではないか。
- ・体罰禁止やハラスメントの根絶は当然であり、「あらゆるハラスメントを根絶します」は拡充だと思う。つまり、部活動だけではなく、全ての教職員が子どもに丁寧な対応をするために、自らの言動を見直していこうというのは、重点施策ではないか。

以上の意見を踏まえ、新規、継続、拡充の区分については一部変更することで調整された。

#### 【検証及び行動計画について】

- ・検証は教育委員会が検証委員を交えて実施し、総合教育会議で報告される。
- ・再発防止策の実施状況については、ご遺族との連絡を図り、進めていきますという一行を最後に入れてはどうか。丁寧に、事あるごとに気持ちを示していくことは大事だと思う。
- ・再発防止策に沿って、学校と十分に協議をした上で、行動計画を作っていく必要がある。
- ・行動計画について、大津市の例を挙げると、条例で位置付けた。
- ・行動計画の中で、学校はどうするのか。いじめを防止するために学校生活の中に先生たちがどう意識を持つのか。トラブルが起こった時に十分に調査し、何か問題があるのかを明確にした後に指導に入っていく。そして、2度と起こらないために、皆で注視していくという手順がある。教育委員会はチームで対応するため、連絡を受けたらすぐに指導主事を派遣し、内容を聞き、問題点を一

緒に洗い出しながら協力していく。行動計画はここまであった方が望ましい。

- ・ 結びの内容は、教育委員会及び学校現場における取組と効果検証の具体化を図っていくことであるので、表題については、「いじめ問題再発防止に関する基本方針」がいいのではないか。
- ・ ご遺族との連携と今後の具体的な行動計画の策定を早急に進める。その上で学校における取組とその効果検証及び教育委員会における取組とその効果検証を図る。なお、その際にも、ご遺族との連携を図りながら取組を進めていく。そういうプロセスが大切ではないか。
- ・ この取組が決定すれば、すごく早い取組だと思う。神戸市では1年半かかった。以上の意見を踏まえ、検証の方法については、検証委員の助言を受けて検討していくことで調整された。

#### 【再発防止策の決定について】

以上、4つの論点について議論した結果、再発防止策（案）に修正を加えた上で、決定することで調整された。

#### 【部活動アンケートについて】

（部活動アンケートについて、教育委員会事務局から説明）

- ・ アンケート結果については、生徒、保護者、教職員にも公表する。公表した上で学校に対してこういうところに課題があると明らかにして、課題を解決できるような方策を示していく。
- ・ 生徒のアンケートについては、回答内容が先生に見られないよう十分配慮して、匿名性を厳格に担保することをお願いしたい。
- ・ 3者とも同じ中身を伝えるべきではないか。生徒の箇所では、部活動の場がいじめやトラブル、体罰なども起こっていますと明記したらいいと思う。保護者

の箇所も部活動の場でいじめやトラブル、体罰など大きな事案が起きましたとすればいい。教師の箇所も、部活動の場でいじめやトラブル、体罰などが発生し、部活動の在り方を検討しなければいけないと考えています、としてはどうか。

- ・アンケートの目的は、色々なことが起こっているから危機感を持って、現場の思いを聞いて、変えていきたいということであり、目的をはっきり伝えないと曖昧になってしまう。
- ・事実をしっかり伝えることについては大賛成です。教育委員会がこの件についてどう考えているのか、メッセージとして「あってはならないいじめが起きた」などを付け加えてはどうか。
- ・「あってはならない」を強調するのであれば、体罰を前につけた方がいいと思う。いじめはゼロになるとは思っていない。むしろ、他方では認知件数を上げていく取組をしているので、そこは矛盾する。体罰はあってはならない。「部活動の場でいじめやトラブル、あってはならない体罰が起っています」というトーンで伝えるということはどうか。体罰に対しては厳しい姿勢を示すべきだと思う。

以上の意見を踏まえ、部活動アンケートは一部内容を修正して実施することで調整された。

## 議題2 その他について

(市立中学校内での重大事案について、教育委員会事務局から説明)

- ・部活動の子どもたちはどう受け止めて、その生徒とどう関わってくれているのか、その辺が気になる。本人への継続的なケアや支援が必要なケースだと思う。
- ・顧問の、生徒に対する配慮が足らなかった、行き過ぎた指導があったとか、学校は自らメスを入れて教職員仲間に対し指摘をすることを嫌がる。それをしな

かったら、何にもならない。ダメなことはダメと問題点を指摘し、繰り返されないために私たちがどうすべきか考えないと本当の意味での再発防止策に繋がっていかない。それを指摘するのが教育委員会の役割だと思う。

- ・教育委員会がしっかり方針をもって、各学校での再発防止のためにここは共有させてほしいと保護者をお願いをして、了解をもらうよう積極的に働きかけてもいいのではないか。

以上の意見を踏まえ、引き続き議論していくことで調整された。

(市立中学校内での体罰事案について、教育委員会事務局から説明)

- ・問題が連続して発生している。各校の校長先生はどう感じているのか。校長会がいじめや体罰、教員の不祥事についてどう感じているのか。教育委員会と一定、緊張関係を持ちながら、独自の組織である校長会がどういう思いを持っているのか。メッセージを出してもらうとか、公表するならば連名で市民に訴えるとか。校長会が独自にこうした問題について、どうしていくのか考えるためのアクションが必要であると思う。
- ・校長会が教育委員会から言われたとかではなく、校長会自らが学校風土を変えていくために、どれだけリーダーシップを発揮して、マネジメントをして、先生たちの意識改革をするのか。この点を教育委員会が指導していかなければいけない。

以上の意見を踏まえ、引き続き議論していくことで調整された。

以上